

広葉樹林の循環利用を目指して

高齢級の広葉樹林を伐採した後、上手く再生させて収穫量を維持する。

研究の背景・目的

古くから島根県の広葉樹林は、燃料用の炭や薪を供給するために、20～30年で伐採して、切り株からの萌芽（ぼうが）を成長させて林を再生・利用する管理が行われてきました。

しかし、ガスや電気が一般家庭で利用されるようになった1960年代の燃料革命以降は、それまでの広葉樹の利用スタイルが変化して、50年以上の林に成長させて、パルプ・チップ材として伐採利用されるようになりました。

しかし、高齢級の木は、切り株の萌芽力が弱くなることや、ナラ枯れ等の被害を受けやすくなり、同じ年数で育てても、以前と同じ収穫量を期待することが難しくなります。

そこで、本研究は、収穫量を維持させる高齢級広葉樹林の管理手法を確立します。



薪や炭を生産する広葉樹林の管理：20～30年で伐採

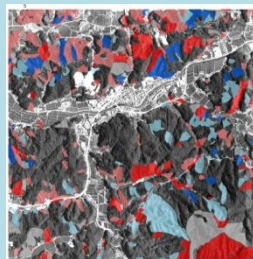
研究方法

1 航空写真を活用した伐採跡地の実態調査（島根大学と共同研究）

- ①過去と現在の画像比較・解析で更新していない林を判定
- ②現地で萌芽状況や、萌芽に影響する要因を調査
- ③現地の状況から将来の収穫を予測

2 資源量を確保するための更新方法の開発

- ①更新を阻害する要因を効果的に除去する作業と必要期間を調査
- ②種子を利用した、萌芽以外の再生方法の調査・試験



撮影時期の異なる航空写真を比較し、生長の悪い更新不良地を抽出



現地調査の実施
萌芽状況調査
阻害要因の調査

研究状況

2015年度から、新たに取り組みを始め、伐採跡地の実態調査を開始しています。

研究成果の活用・今後の研究計画

森林GIS上などで、広葉樹の更新困難地の把握や、再生を促す作業を行うことによって、高齢級の広葉樹林を劣化させることなく、持続的な利用資源の供給源として計画的な林業経営に活用できるようになります。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 森林保護育成科

研究担当者 : 三島貴志・舟木 宏

問い合わせ先 : 0854-76-3822

E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 資源の循環利用を目指した広葉樹林更新技術の開発 (H27-29年)

